

海 浜 青 年 の 家

第 1 節 概 要

福島県海浜青年の家は、恵まれた自然環境の中で、青少年たちの集団宿泊研修活動をととして、規律・協同・友愛・奉仕の精神を体験的に会得させ、心身ともに健全な青少年を育成することを目的として、昭和50年4月に開設された県の社会教育施設である。

当所のめざす教育目標は、次のとおりである。

- (1) 規則を守り、規律ある態度を養う。
- (2) 相互の連帯意識を高め、協同の精神を養う。
- (3) 人格を尊重し合い、友愛の精神を養う。
- (4) 勤労と責任を重んじ、進んで奉仕する態度を養う。
- (5) 心身をきたえ、自己を高めようとする態度を養う。

1 役員及び職員組織

(1) 理事・監事

役 職	氏 名	所 属
理 事 長	佐藤 昌志	福島県教育委員会教育長
副理事長	酒井 信人	福島県海浜青年の家所長
常務理事	渡辺 堅次	福島県海浜青年の家次長
理 事	奥山 健一	福島県総務部長
理 事	早川 俊一	福島県教育庁教育次長
理 事	今野 繁	相馬市長
理 事	鈴木 完一	福島県社会教育委員の会議議長
理 事	太田 緑子	福島県青少年教育振興会長
理 事	金田 浩一	福島県教育庁社会教育課長
監 事	高橋 国雄	福島県総務部財政課長
監 事	田中 淳一	福島県教育庁財務課長

(2) 運営委員

氏 名	所 属
◎阿 部 智 義	相馬市教育委員会教育長
○齋 藤 博	福島県公民館連絡協議会
井 上 俊 郎	福島県青少年婦人課長
片 岡 義 和	福島県教育庁社会教育課主幹
佐 川 六 郎	福島県立浪江高等学校長
木 幡 保 喜	相馬郡鹿島町立鹿島中学校長
太 田 豊 秋	福島県青少年団体連絡協議会顧問
立 谷 耕 一	相馬市青年会議所理事長
椎 谷 薫	相馬市青年協議会
酒 井 啓 雄	海浜青年の家友の会会長

◎印 委員長 ○印 副委員長

(3) 職員組織

職 員	所 長	次 席 庶 務 課 長 兼 長	指 導 課 長	主 事	指 導 主 事	副 保 健 主 任 技 師	主 兼 任 用 運 転 務 員	計
数	1	1	1	1	4	1	1	10

2 昭和63年度重点目標と成果

(1) 研修内容の充実

- ① 青少年団体の利用促進と研修の充実
 - ア 青少年団体の利用を促進し、研修活動をととして青少年の「社会参加意識」を高揚した。
 - イ 多様な研修のねらいに応じられる研修プログラムを工夫し、研修内容の充実を図った。
- ② 学校団体の研修の充実
 - ア 利用団体が自主的・主体的な研修活動を進められるよう、学校との連絡を密にし、適切な指導援助に努めた。
 - イ 指導資料の整備と効果的な指導援助を行い、各学校団体の研修のねらいの達成に努めた。
- ③ 広報活動の充実と各種団体の利用拡大
 - ア 「所報」を効果的に活用するとともに、社会教育関係機関・団体との連携を密にし、施設の紹介と利用の啓もうに努めた。

(2) 主催事業の効果的運営

- ① 主催事業の重点的運営
 - ア 主催事業を次の三つとし、重点的に運営した。
 - ア 集団宿泊指導担当者研修会（5月・6月・2月の3回実施）
 - イ 親と子・海浜のつどい（7月に実施）
 - ウ 高校生・海浜のつどい（8月に実施）
- ② 事業内容の工夫・改善と啓もう
 - ア 事業のねらいに即した内容を計画し、魅力ある活動になるように努めた。
 - イ 前年度実施の反省・評価を踏まえ、内容方法等の工夫・改善を図った。
 - ウ 各学校・各種団体に対し、積極的に啓もう活動を進めた。

(3) 現職教育の推進

- ① 所内研修の充実
 - ア 実地踏査・実技研修を計画的に行い、指導に精通するように努めた。
 - イ 各種研究協議会・研修会等に参加し、指導力と資質の向上に努めた。
- ② 施設機能充実等の研究
 - ア 他教育施設を視察し、本施設機能の充実に生かした。
 - イ 本施設の特徴を生かした研修内容の工夫や資料の作